

『One For All , All For One』

～ 心豊かな人間の育成と
社会を構成する一員としての
規範意識の向上を図る ～

徳島県立鳴門渦潮高等学校



本校は、本年度道徳教育研究指定校として、特別活動における体験的な活動のみならず学校の教育活動全体を通して全教職員が道徳教育の充実・活性化をはかってきました。

先進地での取組を参考にしながら、本校独自の特色ある取組を実践しました。また、生徒の道徳性の把握に努めるために、生徒対象のアンケートも実施しました。

このリーフレットでは今年度の取組の様子や、アンケート結果などを報告します。



本事業での主なねらい

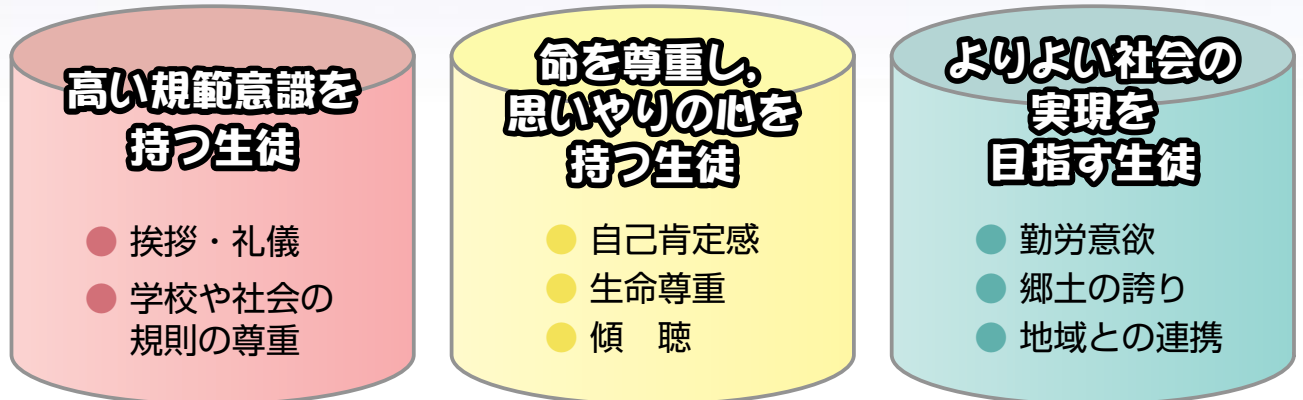
- ★ 特別活動における体験的な活動だけでなく、学校の教育活動全体を通して、心豊かな人間性を育む。
- ★ 自分のあるべき姿を見つめ直し、道徳的な実践力を高める。
- ★ 社会を構成する1人としての自覚を持ち、勤労意欲や郷土に対する誇りを高める。

1. 主題設定の理由

鳴門渦潮高校は撫養キャンパス・大津キャンパス間の2つのキャンパスで連携を図りながら、本校の教育目標である「豊かな人間性を身につけ、自ら学び、考え、未来に向けて自主的、自立的に行動できる、知・徳・体の調和の取れた生徒を育成する。」ことを目指し、教育活動全体を道德教育の視点で捉え、主題を設定しました。

3つの重点目標に沿った活動計画や指導方法を工夫し、周りの人間やものを大切にする心、ひいては自分自身を大切にする気持ちを持ちながら、自分のあるべき姿を見つめ直し、道德的な実践力を高めるため、先述の研究主題を設定しました。

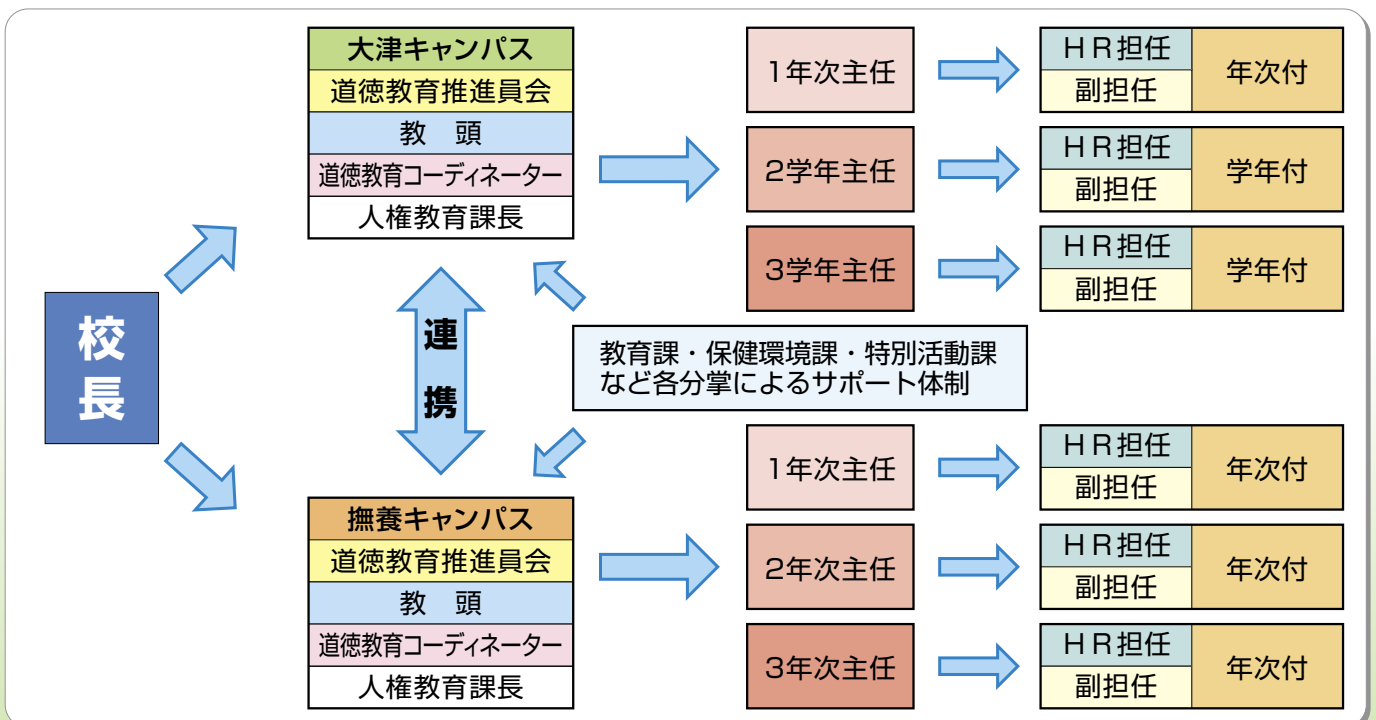
★ 重点目標3つの柱 ★



2. 目標達成のために

- 各教科における道德教育との関係性を考えた全体計画の作成
- 特別活動における体験的な活動(HR活動・生徒会活動・学校行事など)
- 生徒対象アンケートの実施(生徒の道德的実践力向上の意欲、道德的な心の深化度の確認)
- 校内研究授業、研究協議の実施による活発な道德教育の推進
- 各取組を学校HPを通して発信し、地域や家庭との連携を深め、子どもを取り巻く協力体制の強化

3. 道德教育推進体制



4. 特色ある実践例

学校安全の日(大津)
あいさつ運動(撫養)

毎月生徒会実施
社会参加・奉仕

社会人講話(撫養)

総合的な学習の時間
役割と責任の自覚
社会参加・勤労の尊さ

インターンシップ(大津)
職場体験(撫養)

2年生10月・11月実施
役割と責任の自覚
勤労の尊さ・向上心

鳴門市
チャレンジデー(大津)
〔ウォーキング+清掃〕

全校生徒参加
社会参加・奉仕

道徳教育講演会(合同)
〔内田美智子先生〕

10月実施
自己肯定感・家族愛

撫養駅清掃(合同)
〔年間2回 5月・3月〕

生徒会・部活動生中心
社会参加・奉仕

道徳研究授業(大津)
〔マナーについて〕

携帯電話・公共の乗物
教室環境・服装・自転車
規範意識・協力

家庭科研究授業(撫養)
〔異世代ふれあい体験〕

役割と責任の自覚
協力・社会参加

オンリーワン
ハイスクール事業(大津)

撫養街道ウォーク
地場産業・わかめ収穫
郷土愛・文化の継承



道徳的実践力向上 道徳的な心の深化・醸成 勤労意欲や郷土愛の向上

5. 特色ある実践報告

(1) 学校安全の日(大津キャンパス)・あいさつ運動(撫養キャンパス)

※毎月1回実施



近隣の方からも高い評価を頂き、生徒の社会貢献の意欲もより一層高まりました。

《 生徒の感想 》 地域の方から温かい声をかけていただき、挨拶や地域との交流の大切さを再確認できた。

(2) 校外清掃活動・撫養駅清掃



《生徒の感想》きれいになっていく町並みや駅を見て、心が洗われたような気持ちになった。

(3) 道徳教育講演会

目的 命の大切さを学び、自他の存在を尊重する態度を養う。

演題 「いのちをいただいて、つなぐこと」～いずれ一人で生きていく君たちへ～



生徒の姿勢から内田先生の想いが伝わっていることがわかりました。



感謝の気持ちを込めてお礼の言葉

《生徒の感想》自分はすごく恵まれた環境で生活している。親のことをもっと大事にしないといけないと思った。

(4) 道徳研究授業

目的 日常生活のマナーを考えて、規範意識の向上を図る。



グループで話し合い、これからあるべき姿について意見を交わしました。



話し合った結果を模造紙にまとめ、代表者が発表しました。

《生徒の感想》1つ1つの行動に責任を持ち、みんなにとって居心地の良い環境を作りたい。

(5) オンリーワンハイスクール事業



伝統芸能（和太鼓）

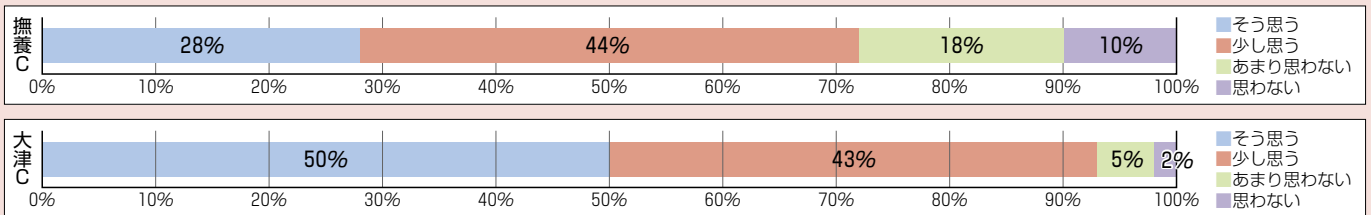


撫養街道ウォーク

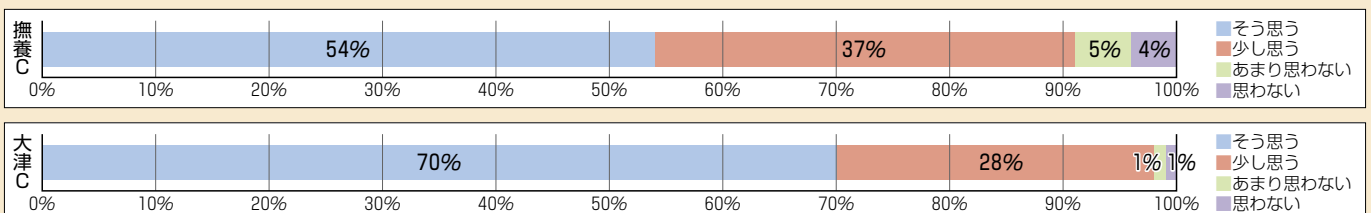
《 生徒の感想 》 地元にこんな素晴らしい文化や場所があることに感動した。もっともっと郷土に対する愛着を持って色々勉強してみたいと思った。

(6) 生徒対象アンケート結果（実施人数：撫養C 429人，大津C 157人）

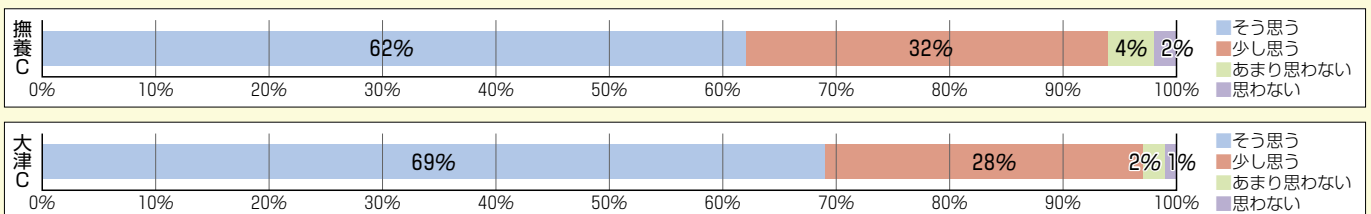
q1 服装や頭髪，挨拶などの生活習慣についてじっくりと考えられるようになった。



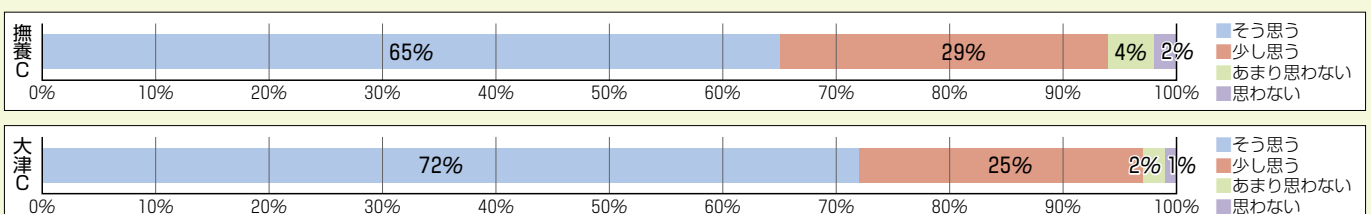
q2 言葉遣いや礼儀など，自分自身の行動に責任を持ちたいと思う。



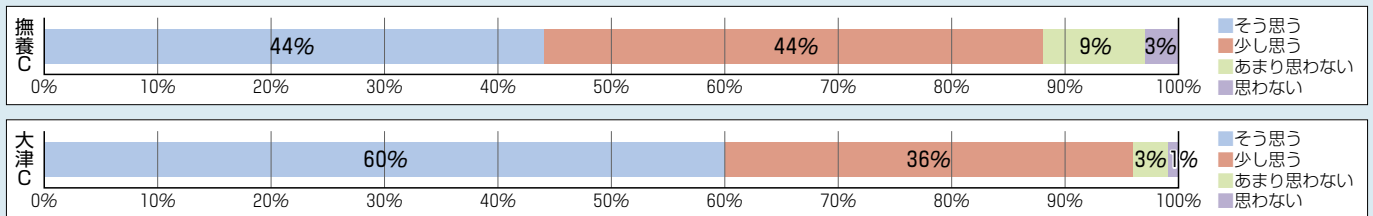
q3 人の気持ちや相手の立場などを考え，周囲の人とのつながりを大切にしたいと思う。



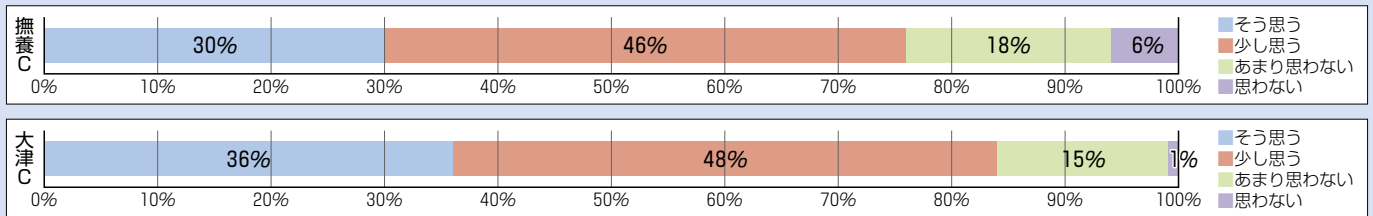
q4 命の尊さや大切さを認識し，それを大切にしたいと考えている。



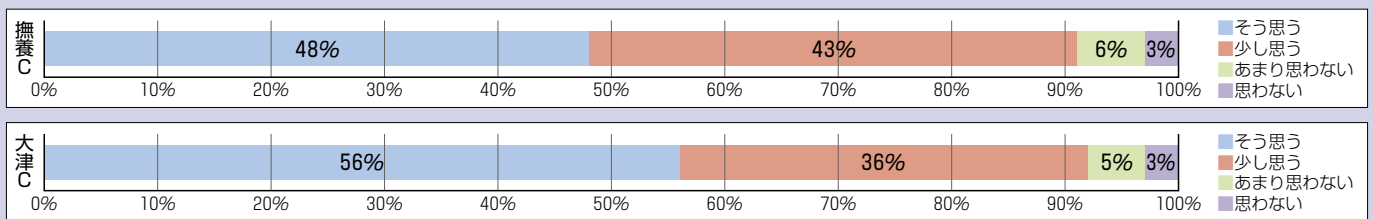
q5 集団(家族・部活・社会など)の一員として、奉仕の心や勤労意欲を伸ばしたいと思う。



q6 郷土に対する誇りや理解が深まり、地域との連携を大切にしたいと思う。



q7 共同作業や話し合いを通して、相手の意見や考えを理解する力を伸ばしたいと思う。



アンケート結果より

- どの質問に対しても肯定的な回答が大部分を占めており、生徒が道徳的な実践力や道徳的な心を育みたいと考えていることが確認できた。
- 特に周囲の人とのつながりを大切にしたい気持ちは両キャンパスともに強いようである。
- 頭髪や服装、挨拶などの生活習慣については一部、否定的な回答も見られ、意識改革が必要である。
- 生徒は自分のあるべき姿やよりよい社会実現を考える力が潜在的に身につけているため、これを生かした活動や指導を計画する必要がある。

6. 成果

- 地域との連携を深め、様々な職種の方や幅広い年齢層の方とコミュニケーションをとることで社会を構成する一員としての自覚が深まり、規範意識が向上した。
- 伝統文化や地場産業を体験することで、郷土に対する誇りが高まった。
- 講演会や講習会を通して、命の尊さを実感し、自他を大切にできる心が育まれた。

7. 次年度へ向けて

先進地での視察報告を教職員全体で共有し、今年度の取組について再考し、次年度以降の継続的な取組や意識の向上を図る。この研究事業をきっかけに、断片的な取組でなく継続的な取組として道徳教育の充実を図っていききたい。また、定期的な地域社会への情報発信を行い、地域に根ざした教育活動を実践したい。